

板野中学校 同和教育だより

# マイ・スカイ 最終号

2002年3月14日(隔週火曜日きまぐれ)発行

p(&gt;\_&lt;)q

発行者

編集・文責  
眞吉成正士

まいとし 每年のことですが、数学の授業後の私を見て、誰彼となく、「きたない～」と言葉をかけてくれます。黒板のチョークの粉が私の服についてるのを見て言ってくれるわけですが、服を払ってくれる人もいれば、言うだけの人もいます。その言葉にいつも、「汚くなるのは仕事をした証拠！」と返してはいますが、どちらにせよ私は、「きたない」という言葉に、一種の「恐さ」を感じています。「職業に貴賤なし」というものの、実際にはその人の身なりを見て、「汚い」とか「きれい」とか思い、言ってしまう部分が私たちにはあるのではな  
いでしょうか。

いぜんぜんたいがくじゅう 以前全体学習の中で、ある生徒がこんな発言をしてくれました。

ぼくの父さんは、自動車部品を作る会社で働いています。父さんは油がいっぱいの所で仕事をするため、いつも会社から帰ってくると、油のくさいにおいがします。

この前、徳島市に母さんと行く時、父さんの会社の前を通りました。そのくさいにおいがしたんです。その時、母さんは「くさいなあ」とか言わなくて、ぼくに「これ父さんのにおいやな」って言うてくれて、「父さんは今ごろここで頑張っているんだろうなあ」って言つたんです。その時すごく母さんが輝いて見えて、母さんがすごく好きになつたんです。ぼくはそんな母さんを誇りに思うし、ぼくも差別意識がなくなつたら母さんのように輝けると思うんです。

よ 世の中にはいろんな仕事があり、仕事によっては汗だくになったり、油まみれ泥まみれになることもあります。そんなことはみなさん百も承知でしょうが、やっぱりどこかで、「見かけだけで判断」しているのかもしれません。しかしその上っ面だけを見るのではなく、その人の生き様や思いに触れる中で、仕事に対する差別意識とでもいうものを拭い去っていくのではないでしょうか。

まちゆ 街行く中で、知りもしない通りすがりの人々の生活に思いを馳せながら、感謝と尊敬の念が浮かべられる人でありたいものです。



そつきょうせい ざいこうせい おくことば  
卒業生へ、そして在校生へ「贈る言葉」

「贈る言葉」の前に、この間に行われた1年生全体学習(1月29日・31日)についての

# 《MY SKY 最終号》

感想文を紹介しておきたいと思います。

## 《1日め(1月29日)》

今日は1Bの全体学習でした。とりあえず3回は発表できたよ！友達と声かけ合って頑張れた！それこそ1Bのいいところ、チームワークですね！いい思い出になりました。楽しかったです。

＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊

今日全体学習でした。『菜の花』について話をしました。私は最後の方で一回手を挙げることができました。今日は一回だったけど、今度はできるだけ頑張りたいです。

＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊

今日の全体学習では、いつもより頑張って手を挙げることができて嬉しかった。Sのおかげかな？

＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊

今日は全体学習だった。私、1Bが体育館で勉強しよん、1AもCもDもおるん忘れとった。ほなけん少ししか緊張せんかった…。でもあんま発表できんかったなあー。

＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊

## 《2日め(1月31日)》

今日も全体学習がありました。私はSやMが言ったことが、すごく今心に残っています。何か言いたかったけど、なぜかその言葉が出てきませんでした。そのことを私は悔しく思っています。

＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊

今日は全体学習でした。最後の最後に言いたかったこと言って良かった。私はほんなんに気づかんかったけど、周りの子からいじめについて相談されよった。これでみんな元気になればいいな…。

＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊ ＊＊

今日の全体学習は1Aでした。一番心に残っているのは、SとMが勇気を出して言ったことでした。なぜかというと、私もSと同じことが中学校であったからです。その時はいつも一人でごーく辛かったです。Sも同じ辛さだったと思います。それなのに、そのことを一年みんなの前で言えたのはすごかったです。Mが言ったことも心に残りました。私は学習会に入ってないから、はっきりどんな所かは分からなければ、中学校に入って「私も行きたい」っていう気持ちがよくありました。なぜなら、学習会に行っている友達が、私に「学習会って楽しいよ！部活も楽しいけど」って言ったからです。「楽しい」って思える人がいるんだから、このまま続けてほしいです。

1年生のみなさんよく頑張ってますね～。「今度は100回くらいできるように頑張りた

いです！」っていう感想を書いてくれてる人もいました。何度も何度も、繰り返し頑張って発表したみなさん、ごくろうさん！でも、手に汗かきながら一度も発表できなかつたみなさんもいたんですよね～。そんなみなさん！発表回数にこだわる必要はないんじゃないかな？確かにたくさん発表できた方が活気が出で楽しい授業になると思います。

「全体学習、みんなで思ったことを聞き合って、会話になる。それが授業！大切ですね。」こう感想に書いてくれてる人もいました。でも、発表できなかつた人の中に、一生懸命だった人も必ずいるはずです。そんな頑張りも同じように認められるとステキだなと思うんです。みんなの意見を聞くだけでも勉強になるもんね！

そして、先日行われた「3年生を送る会」（2月22日）では、「一人芝居『花火』」を、さくらホールで観ました。やっぱりホンモノの芝居の迫力はすごかったようで、たくさんの人が次のような表現で感想を書いてくれてました。

**「一人芝居を見ていると、だんだん物語の中にいるような感じになってきた。たった一人で芝居しているのに、何人もいるように思えた。たった一人でも、客を物語に引き込むことができるんだなあと非常に感動した。」**

「背景を変えずに、そのままで学校に見せたり、公園に見せたりとびっくりしました。」

「本当に哲男やあかねが目の前にいるようで、クギヅケになつてしましました。」

「一つ一つの動作や言葉で、そこに入人が見えてきました。『すごい!!』って思いました。」

また、最後に踊った韓国・朝鮮の踊りに、中学生のみなさんがどんな反応をするのか気になつたのですが、それも結構好評だったようです。

「最後に踊った朝鮮の踊りも、きれくて上手でした。」

「一番すごいと思ったのは、最後の踊りでした。」

「見て楽しかったところ、それはやっぱりラストの踊りだと思う。あの踊りにひかれるものがあった。やさしさがあって、あたたかみもある踊りだなあと思った。」

劇を観る前、私は「ちゃんと観れるかな？騒いだりしないかな？退屈そうにしたりしないかな？」と心配してないわけではありませんでした。でも私が思つてゐるより、中学生のみなさんの感性は本当に豊かで、私の不安は一気に吹き飛んでしまいました。湧く場面では歓声があがり、しんみりする場面では耳を澄まし、感動的なシーンでは自然と拍手が起つて、舞台と客席が一体化しているようでした。まるで充実しているときの全体学習のようでもありました。みなさんのこと、信じてなかつたわけではないんだけど、やっぱりどこかで信じてなかつたのかな……。みんな、ゴメンね！全般的な感想文を三つほど紹介します！

テーマがとても深かつたように思います。「いじめ」から始まつた劇。最初はいつも通りに「いじめはいけない」とか言って終わると思っていました。でも、それが「障害者差別」「民族差別」へと移り変わっていき、人の心の暗い部分が浮き出てきました。一人の少女を通して、一人の男の子の優しさなどを見つけた先生。初めて真剣に生徒と

## 《MY SKY 最終号》

触れ合った瞬間が、とても感動しました。そして話が「部落差別」へと移っていました。自分とは関係ないと考えていたことに気づき、自分のこととして考えられるようになった先生を支えてくれた生徒たち。それを見ていて「人」っていいなあって感じになりました。こんなにたくさんの重いテーマを一人で演じ続けた梶本さん<sup>かじもと</sup>にとても感動しました。

人は自分とは異なるものを探して、集団で攻めるという嫌な部分があります。でも、人には人を愛したり、思いやったりする素晴らしい部分もあります。そのことを、あらためて考えさせられたお芝居でした。

\* \* \* \* \*

私はこの一人芝居「花火」を見るとき、初めは「こんなんおもっしょーないだうなあ」と思っていました。見始めた時も、最初は「何や……??」とか思ったけど、だんだん引きずり込まれるように見入っていました。

あかねが「自分は朝鮮人で、障害をもっている弟がいる」と言った時に、哲男が「そんなん関係ない、みんな同じ人間やろ！」と言ったところが、すごく印象に残りました。「朝鮮人がどうした！障害をもっていることがどうした！そんなん関係ない！」っていう気持ちがすごく伝わってきました。その時、私も「そうだな！」って思ったけど、「実際哲男と同じ立場になった時、言えるだろうか……」と思いました。

黒木さんと花火が別れた理由が「親が黒木さんは部落だと分かったときに別れてくれと頼んだから」だと分かった時、「なんで!?そんなん関係ないやん！」て思いました。結婚するのに、何でどこ出身かが関係あるのか分かりませんでした。そんなことにいちいちこだわっている人がたくさんいるから、差別はなくならないんだなと思いました。

最後に、黒木さんからの手紙が届いていたとき、二人が一緒に力を合わせて、これから立ちはだかる多くの壁<sup>かべ</sup>を乗り越えていってほしいなと思いました。そして、そんな風<sup>ふう</sup>にできる社会を、今の私たちが変えていかなければならないと思います。(物語にのめり込んですんまそん)

\* \* \* \* \*

私は、前に文化の館で初めて一人芝居を見ました。私が想像していたのと、全く違っていました。私が想像していたよりも、とても面白かったです。いろんな動きがあって、はきはきとした声で、館内に響きわたるような大きな声でした。男の子の役をすれば、女の子の役もやって、大人の男の人の役をすれば、大人の女の人の役もして、すごく格好良かったです。あれだけのセリフを覚えるのは大変だうなと思いました。

最初、私はあらすじを読んでいなかったので、何の話か分かりませんでした。でも真剣に見ていると、だんだん意味が分かってきました。差別のことでした。部落差別や朝鮮人差別のことについてでした。学校の生徒に部落の子がいたり、朝鮮人の子がいたり、自分の元彼が部落の人だったり、問題がたくさんありました。でも花火さんは「そ

んな差別に負けるな！人間はみんな平等なんだ！」って言ったところで、私はまた一つの部落差別がなくなつたと思いました。

私は一人芝居を見て、「北から南、東から西の全国の人たちがこの芝居を見ると差別がなくなる日は近くなる」と思いました。私は、また一人芝居を見たいと思いました。

実は感想文を読む中で、「まだこんな部落差別が残っているとは知りませんでした」といった内容のものがいくつか見受けられました。私は、「アレッ？」と思いました。教室やこのマイスカイでも、実際に起こった、また起こされている部落差別について学習していたと思い込んでいたからです。やっている側(マイスカイを書いている私のような側)はやってるつもりでも、受けている側が「やった」と思わなければ、「やってない」ことと同じです。ちょっとショックでした。もっと思いが伝わるように、努力・改善していきます。

でも、中には自分のこととして、自分の身近な問題として考えられ、これからどうすべきかを考えようとしているみなさんもいたようです。

「この芝居を見ていてドキッとしたところがあった。それは結婚差別や部落差別。今までいっぱい学習してきたけど、いつも軽い気持ちでしか考えてなかった。花火の両親が花火のためを思って相手と花火を引き離したシーンは、ちいと考えた。もし自分が母親だったらそうしたかもしれないからだ。今はもう差別が昔ほど残っていないというけれど、やっぱり『部落という肩書きで花火の人生を変えてしまうかもしれない』という親の気持ちも分かる気がする。でも、私が花火の立場だったら、花火のように相手を捜して追いかけてくと思う。まあ差別がなくなればいいことなんやけど。それをなくすために、私ができることをしたいと思う。」

「……特に花火の結婚差別は、私も経験するような問題だったので、すごい分かる気がしました。」

「……実は一人芝居を見る前日に、親戚のお姉ちゃんと結婚について話しました。そのお姉ちゃんは結婚を考えていて、親に言うと部落のことが出てきたそうです。相手が部落かどうか分からぬけど、部落だったら反対はしないけどいい気はしないようだったそうです。こういうことがあったから、見ていてすごく身近なことだと思いました。将来は自分の問題になるかもしれないから、真剣に考えていくこう思います。」

実はこのお正月、私も身につまされるような思いをしました。お正月に卒業生と集まり、飲みに行ってた時のことです。中学時代に同和教育・部落問題学習を通して「人としてどう生きるべきか」を問い合わせた仲間たちでした。その精神は卒業式にも引き継がれ、大変感動的別れをした仲間たちでした。いろんな話に花が咲き、今どう暮らしているのか、何を考え生きているのか語り合うことができ、すごく充実した時間を過ごすことができました。

時は過ぎ、一軒め、二軒めと場所をえていく中で、三軒め(時間はもうとっくに午前0時をまわっていました)で、ある卒業生がこんな話をしてくれました。

「先生、中学時代のオレは、全体学習にも部落問題学習にもずいぶん消極的やつた。みんな

## 『MY SKY 最終号』

が話しよるときも、『こんな嘘じゃ。みんななんやかや言うても、自分のことは棚にあげて、部落のことはどこか遠いことのように話しよる。』とずっと思ってた。高校時代に部落差別に出会ったこともなかつたし、大学で県外に行くことになつた時も、部落差別に出会うことはないと思ってた。けどな、大学に行って初めて二回部落差別にあつたんよ。』

彼は突然、でも「実は今日はこの話をしに来たんだ」という決意を抱いて来たかのように、前のめりになり、私に食い入るように話し始めました。周りでされている会話は、遠くから聞こえてくる雑音のようで、そこだけ別の空間であるかのようでした。

「一回めは下宿のおばさんやつた。下宿近くに出入りしている人たちを指して、『あの人たちとは関わらんといつた方がええよ。あの人たちは生まれが違うから』って言つたんよ。その時、ビンときた。『あつ、これが部落差別なんじゃ』って。けどな、ほの時は何も言えんかったんよ。悔しい思いはあつたし、何か言わなあかんと思ったけど、何も言えんかった。情けなあて、下宿に帰つてからもずっとほのことばっかり考えた。親の顔が浮かんだ。友達の顔が浮かんだ。けど、このことは絶対誰にも言つまいと思った。』

彼の目線は落ちていきました。

「二回めは後輩やつた。オレの下宿に一人の後輩が遊びに来て、どういう話の流れか覚えてないけど、なぜか部落の話になつたんよ。そしたらほいつ、無茶苦茶なこと言い出して……。ほんま部落の人間は人間でないみたいに言つたんよ。『部落の人間の血は違う』とか言い出して。オレもうたまらんで、いきなり立ちあがつて台所行つたんよ。包丁取り出してそいつの目の前で、『これでオレの血見せたろか。オレもほうじや。部落の人間じや。他のヤツらと何が違うんな。どこが違うんな』ってやってもたんよ。ほの後何話したかよう覚えてないけど、とにかく必死になって話したんよ。そいつ、最後には謝りよつた。ほんまに分かつたかどうかはわからんけど……。」

「悔しい」言葉にすればたつた三文字ですが、その言葉の奥にどれほどたくさんの思いがこもつてゐるか。その悔しさが、彼の身体からにじみ出でていました。私自身も、あまりの悔しさにやりきれない気持ちでいっぱいでした。暴れたいけど暴れたところで何にもならない。誰かに言って救われるわけでもない。ただただ、私がやつてきた部落問題学習の不十分さを責めるしかありませんでした。けど、彼はこうつけ加えました。

「オレ、もっと中学校で真剣にやつたらよかったです。けど、一回めは何も言えんかったけど、二回めにちょっとでも言つてよかったですと思うとんよ。成長しただろー。」

彼のこの毅然とした姿勢に、私自身救われた気がしました。自分自身を無理して奮い立たせているのかもしれません。けど、その表情は話し始めた頃とは明らかに違い、どこか晴れ晴れとしているように感じられました。今まで誰かに言つたことがやつと言えたという爽やかさ。部落のことについて正面から話せる安心感。そんなものを感じたのです。

しかしながら、彼は今の仕事についてこうも話しました。

「今仕事で営業のようなことしているけど、担当になっているところに部落がある。一部に支

はら  
払いをしてもらえないところもある。オレらの生活の中にあるしんどさが分かるだけに、オレ  
もしんどい。オレらがもっとシャンとしていかなあかんと思う。親がシャンとできんのに、子  
どもがシャンとできるはずがない。」

「お前がそう言うのは構わん。けど、部落問題を知らずにその言葉を吐くヤツもおる。ワイ  
はそれが許せん。特にワイら教員も含めて、公務員には差別をなくしていく義務と責任があ  
る。そのことを十分分かってない今まで、部落の悪口や悪いイメージを広めるヤツも中には  
おる。いろんな考え方があっていいけど、差別をなくさなあかんということを放ったらかし  
にしたらあかん。それと、同じ部落の者を悪く言うたらあかん。シャンとできん理由が、お  
前には分らんワケではないだろう。誰でもシャンとできるもんならしたいと思うとる。ただ、  
おなたたちの中で部落差別にドップリつけられ、シャンとしたくてもできんかった思いを抱い  
でいかなあかん。その人やその人の生き様から、いろんなことを学びとつていかなあかんの  
やと思う。その経験が、自分の人生を豊かにしてくれるんでないか。学ぶっていうことは、  
自分を豊かにするっていうことや。そう思つたら、その人に感謝こそすれ、責めることはな  
いだろう。人を責めることの愚かさに気づいていくハズや。いざとなつたら差別を受けるん  
は一緒やないか。一緒に手を組んでいかな。何が違う。どこが違う。みんな一緒の人間やな  
いか。」

私はこの言葉を吐いているうちに、彼に言っているのではなく、自分自身に言い聞かせて  
いるような錯覚を感じました。私もまだ発展途上の人間です。完成されたわけでもない  
し、いつ完成されるか分かりません。死ぬまで完成されないんじやないかとすら思つていま  
す。だからこそ、日々学びであり、日々成長なんだと思えるのです。

さてここで、各高校で同和教育・部落問題を学べる活動を紹介しておきます。高校では、  
小学校・中学校のように、毎週部落問題学習があるわけではありません。年に数回くらいの  
ものです。先ほど言ったように、同和教育はいつまでも学びであり、一生その学びが尽きる  
ことはありません。つまり、せっかく関心が湧いてきた人も、中学校でその関心が途切れ  
しまうかもしれないのです。個人的に学んでいいのですが、それではどうしても視  
野が狭くなったり、ある方向に偏ったりするかもしれません。そのためにも、高校で板中の  
生徒会人権委員会にあたる生徒会活動や、人権部にあたる課外活動(下表)に参加してみては  
どうでしょうか。きっとこれからのみなさんの人生にプラスになると思いますよ！

城 東	ノウ・サークル	徳島中央(徳島中央) 9C(火曜9時会)	
城 南	ヒューマン・ライツ	鳴門 部落問題研究部ヒューマンネットワーク	
城 北	社会問題研究会	鳴門第一 社会問題研究部	
城ノ内	解放研「レベラーズ」	鳴門工業 社会問題研究部	
徳島北	人権部	板野 愛真会	
城 西	社会問題研究部・部落問題研究会	名西 部落問題研究会	
徳島工業	解放研究会	阿波 社会問題研究会	

# 《MY SKY 最終号》

徳島東工業	同和問題研究会	阿波農	解放研「リバティ」
徳島商業	生徒同和教育推進委員会	生光	人権委員会

いよいよここからは、私たち同教団からの最後のメッセージです。

3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます！みなさんとの付き合いは2年前の春からで、たくさんの思い出をみなさんからもらいました。教師としてもまだまだ若く未熟者の私にとって、みなさんと過ごした時間はとても貴重で欠けがえのないものでした。学習会で真剣に同和問題に取り組んでいた姿、受験勉強を懸命に頑張っていた姿、部活で一生懸命に汗を流していた姿、全体学習で自分の思いを語っていた姿など、みなさんの輝いているシーンが次々と頭に浮かんできます。みなさんの人生はこれからです。これからもどんどん輝きを増していって下さい。私自身これからも、みなさんに負けないように成長していきたいと思います。本当に今まで楽しかったです。お互い輝いている人間になりましょう。

学習会専任指導員 赤澤 健志

私が、板野中学校に勤務してはや一年が過ぎようとしています。そして、アッというま間の一年だったと思います。三年生の人はもう卒業ですね。中学生活はどうでしたか？楽しかったですか？思い出はたくさんできましたか？私はみんなといっしょに学習会で、勉強したり、いろいろな話をしたりして思い出がたくさんできました。勉強では教える立場でありながら、逆に私の方が教えられたような気がします。これからそれぞれの高校に進んで行くと思いますが、中学校での仲間、また学習会の仲間を大切にしてください。そして、笑える日々を送って下さい。

学習会専任指導員 佐瀧 昭博

ご卒業おめでとうございます。中学校での3年間はどうでしたか？たくさんの思い出ができたことでしょう。その中には、楽しかったこと、面白かったこと、または進路に悩んだことなどもあると思います。そのすべてがみんなを成長させたのではないでしょうか。一生懸命何かに取り組むという姿が多く見られるようになりました。2月からの学習会延長学習においてもがんばろうという気持ちが伝わってきました。そして、その気持ちを支えたのは、友達の存在も大きかったのではないでしょうか。

これからは、中学校までと違ってそれぞれ自分の選んだ道を歩くことになります。いろいろなことに出会うと思います。もしかしたら、悩むこともあるでしょう。そんなときには、仲間のことや自分が一生懸命がんばったことを思い出してください。きっと力をくれると思います。

自分に自信を持って、がんばってください。

本当に、ご卒業おめでとうございます。

学習会専任指導員 よしだ 吉田 友里

私の最後の出番がきました。卒業生のみなさん！卒業おめでとうございます。これまでみなさんは、板野町という、ある意味「温室」の中で過ごしてきたのかもしれません。

### 「井の中の蛙大海を知らず」

この言葉通り、大きな海を知らず、まだまだ広い世界を見ることはなかったのかもしれません。みなさんは小さな「蛙（カエルのこと）」だったのかもしれません。いえいえ、もしかするとまだ「オタマジャクシ」なのかもしれません。そう思うと、この「蛙」がずいぶん小さくて、ひ弱で、かわいそうな生き物のように思えてしまいます。

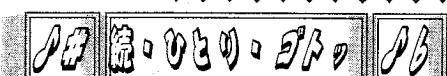
でも、実はこの言葉には続きがあるというのです。それが、これです。

### 「されど、空の青さを知る」

確かにまだまだちっぽけな存在だけど、志は果てしなく大きく、高く、明日という未来に向かって、確固たる自分を持っているという感じがしませんか。そう思うと、今まで想像していた「蛙」が、とたんに大きく見えてはこないでしょうか。「蛙」のキリッとした目やピンッと張った前足すら思い浮かべることができます。カッコイイじゃありませんか。今みなさん、ちょうどそんな姿だと思うのです。確かに世界が広がることで、ずいぶんと苦労することもあるでしょう。何度も壁にぶち当たり、へこんでしまうこともあるかもしれません。でも、みなさんはこの町があります。この板野中学校があります。しんどくなったら帰つてくるところがあります。しんどくなったらいつでも帰ってきてください。そしてエネルギーをたくわえ、また世界に飛び出していけばいいんです。そしていつか、その苦労すら喜びや楽しみに変えられるよう、自らの意志で歩んでいってください。

在校生のみなさんも卒業生同様、新年度、それぞれの未来に向かって頑張ってください。私も、さらなる進化を遂げるべく頑張り続けます。

それぞれの頭上に広がり、どこかで必ずつながってる、この青空のもとで……。



■今年一年、思いつくままに、いろんなことをこの

マイスカイにとりあげ記してきました。それも今回でおしまいです。まだまだすべてを伝えきれてはいませんが、「少しでも」と思い綴ってきたように思います。私たちの一方的な「思いの押しつけ(?)」を、一年間快く読んでいただき、本当にありがとうございました。

■掲載した中で、心に留めておいてほしいことを敢えてあげるなら、やはり「狹山事件」でしょうか。部落差別による冤罪だと言われています。今もなおその罪が晴れることはありません。その思いの一端を、本人である石川一雄さんと、その妻である早智子さん（徳島出身）が綴った文章から感じ取ってください。

しんしゅん つまづ さいど  
新春に躊躇再度のスタートも 砂漠の司法に厚き壁求む

2002年2月20日 石川 一雄

たたか ば さいこうさい さいこうけん  
闘いの場は最高裁・最高検に

とくべつこうこうく もう た  
1月29日、特別抗告を申し立て、闘いの場は最高裁、最高検になりました。東京高  
裁では、高木裁判長に再審を棄却され、高橋裁判長に異議申し立てを棄却されまし  
た。

なんど けんりょく うらぎ  
何度も何度も司法権力に裏切られ続けながらも真実は必ず明らかになることを信  
じ、闘い続けてきました。一雄さんは63歳になりました。狭山にいるときはほとんど  
毎日ジョギングをしていますが、自分の体力が毎年確実に落ちていることをジョギング  
のタイムで感じています。

いき しんききやく きんきゆうこう ぎしゅうかい  
1月29日の異議審棄却緊急抗議集会での一雄さんの発言は、「私はこれからも何  
十年も生きようと思う。生きなければならない。冤罪が晴れるまで何十年かっても闘  
いぬく」と不退転の決意を述べました。

まえむ せんじつ  
このようにいつも前向きな生き方をしている一雄さんが先日「自分の生きている間に  
冤罪が晴れるだろうか」と話しました。一瞬返事に詰りましたが「大丈夫だよ」と  
答えました。一雄さんにとて『時間』との勝負を感じたのでしょうか。健康に気をつけ  
「長生きをする」ことが一つの闘いでもある一雄さんから私が初めて聞いた言葉でした。

かりしゅつごく ひょうめんてき ひかくとき  
一雄さんは今仮出獄で社会に出てきています。表面的には比較的自由になっていま  
すが、現実には「殺人犯」としてさまざまな遵守事項、規則に縛りつけられ、選挙権さ  
え認められていないのです。

むじつ さけ じゅばく  
無実を叫び続けて40年が来ようとしています。取り返すことのできない年月を振り  
返ってもせん無いことと思いつつも今もなお呪縛の中に置かれている一雄さんの無実を  
叫ぶ日々を見、感じてきた私にとって「棄却」攻撃は身を切られるようにつらいもので  
した。権力はそんなものと割り切ることはできませんでした。

一雄さんは、あくまでも自分の信念を貫き、身の潔白が明らかになるまで闘いぬく  
決意でいます。

せいぎ  
今の司法権力にそれでも「正義」を求めて私も闘いを進めていきます。

いしかわ さちこ  
石川卓智子

いぜんじょうかい ならすいへいしゃはくぶつかん おおさかじん  
「学び」を求めればキリがありません。以前紹介した「奈良水平社博物館」や「大阪人  
権博物館リバティおおさか」「岡山染色一揆資料館」などもその一つです。何かの機会にみ  
なさんも訪れるチャンスがあるかもしれません。その時には、ぜひ「伝えたい思い」を感じ  
てきてください。またチャンスはなくとも、進んで行くことも可能かと思います。本当の意

味で人権が中心におかれた人づくりが進んでいけば、<sup>あ  
まえ</sup>当たり前のように、こういった場所へ行くことになるでしょう。そんな時代を、私たちの力で早く呼び込もうではありませんか！

000 これから明日 000

3月16日(土) 卒業式

19日(火) 徳島県公立高校一般入試合格発表

22日(金) 離任式・修了式

23日(土) 学習会春季一日研修(7:30~19:00; 大阪人権博物館「リバティおおさか」など)